



# Anubis FAQ 1

## 使用想定環境

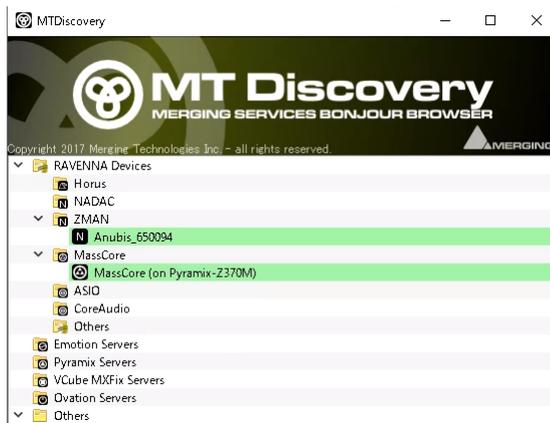
- 2x XLRと 2x TRSにそれぞれ録音するソースを接続し、
- DAWのプレイバックをヘッドフォンで聴きながら演奏し、
- DAWに録音する（オーバーダビング）する。
- モニタースピーカーをANUBISのXLRからつなぎ、モニターする。

## 前提条件：

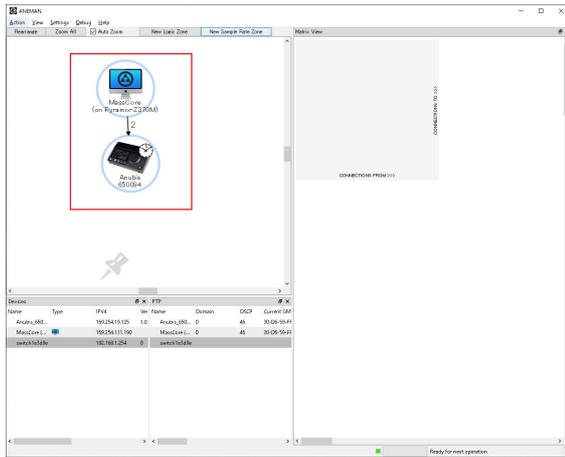
- MT Discovery をインストールしてください。
- ANEMAN v1.2.0をインストールしてください。
- PCを使用される方は、Merging RAVENNA ASIO driver をインストールしてください。
- MACを使用される方は、Merging RAVENNA AES67 VAD Premium V2.0.4085 をインストールしてください。

## システムをつないだ後に行う、基本的な確認事項

1. ANUBIS, MAC に電源を入れ、MAC側の MT Discovery でANUBISとMACが同じネットワーク内にある（MT Discoveryで見える状態）ことを確認してください。



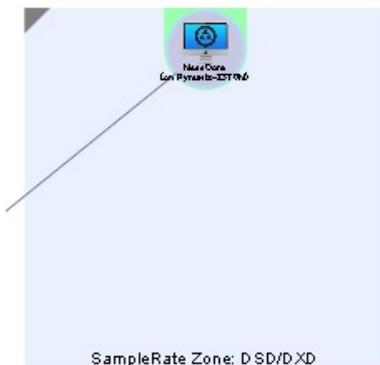
2. DAWアプリケーションを起動させてください。
3. ANEMANを起動させてください。
4. ANEMANのWorld View（左上のウィンドウ）でANUBISとMACが見えているはずですが。



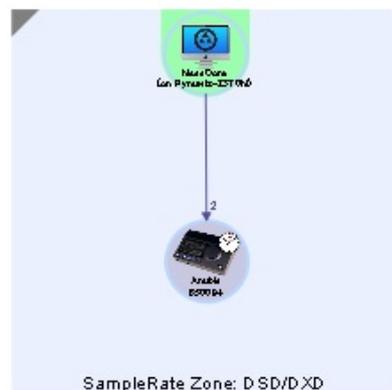
5. World View の右上にある[[New Sample Rate Zone]]をクリックすると、新しいSample Rate Zone が作られます。



6. 作られたSample Rate Zone のクラウンマークにMACをドラッグして入れます。



7. さらにANUBISもドラッグして、このZoneに入れます。



8. これで、ANUBISのGENERAL SETTINGS > Sampling Rate にある“Auto”が有効になっている（デフォルト）と、DAWのサンプリング設定と同時に自動的に変わってくれます。



9. ANEMANの Matrix View (右側のウィンドウ) でDAWのミキサー出力がANUBISの "DAW SOURCE" に接続されていることを確認してください。

ANEMANでは、機器の出力が縦並び、機器の入力が横並びになっています。

もしDAW出力をANUBIS入力に接続する設定が済んでいなければ、DAWの出力のチャンネル番号 (例ではDAW output 1/2) とANUBISの "DAW SOURCE 1/2"の交点をマウスでクリックして選択し (明るい緑色に変わります)、次に左上に表示される[[**Apply Multicast**]]をクリックして下さい。

数秒後、交点はパープルに変わり、接続が行われたことが表示されます。

The screenshot shows the ANEMAN Matrix View interface. On the left, under 'CONNECTIONS FROM >>>', 'MassCore Output 2' is selected. In the center, the 'CONNECTIONS TO >>>' grid shows a connection between 'MassCore Output 2' (row) and 'DAW1-2-2' (column). The intersection point is highlighted with a red box. At the top left, the 'Apply Multicast' button is highlighted in pink.

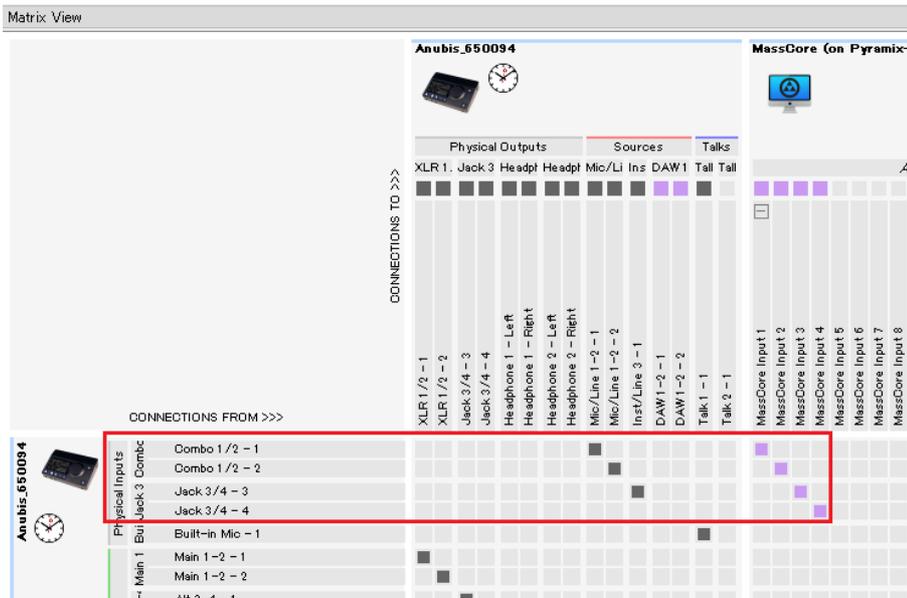
The screenshot shows the ANEMAN Matrix View interface after the connection is established. The intersection point between 'MassCore Output 2' and 'DAW1-2-2' is now highlighted in purple and enclosed in a red box. The 'Apply Multicast' button is no longer highlighted. A message box on the left states: 'Output is already receiving: MassCore (on Pyramid-2370M), Anubis\_650094, DAW1-2-2'. The 'Pyramid-2370M' device is visible at the bottom left.



10. 次に、ANUBISのXLRとTRSに入ってきた信号をDAWに録音するために接続します。

それを行うにはANUBISの、  
Physical Inputs Combo 1/2-1 と DAWのInput 1の交点をクリックして選択、  
Physical Inputs Combo 1/2-2 と DAWのInput 2の交点をクリックして選択、  
Physical Inputs Jack 3/4-3 と DAWのInput 3の交点をクリックして選択、  
Physical Inputs Jack 3/4-4 と DAWのInput 4の交点をクリックして選択、  
以上が終わったら、左上の[[Apply Multicast]]をクリックして数秒お待ち下さい。

交点はパープルに変わり、接続が完了したことを示します。



ANUBISのXLR1,2, Line 3/4に入力したものは、DAWのInput 1-4 に接続されました。

以上で、ANUBISの入出力と、DAWの入出力の接続が終わりました。  
次はANUBISの設定を行います。

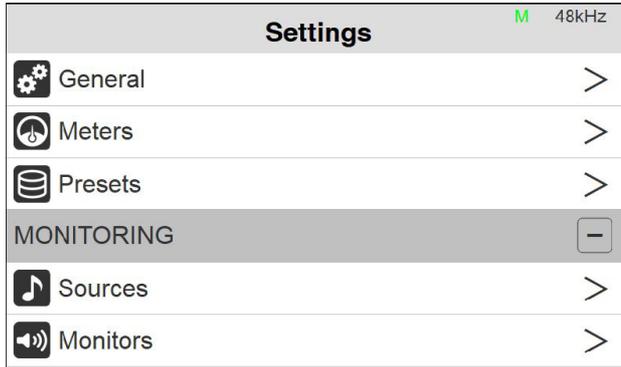
以上は、基本的にネットワークや機器関係に変更がなければ変わらない設定です。

接続の様子をANEMANのメニュー Action > Save Connection で保存したり、Action > Recall Connection で再現したりすることも可能です。



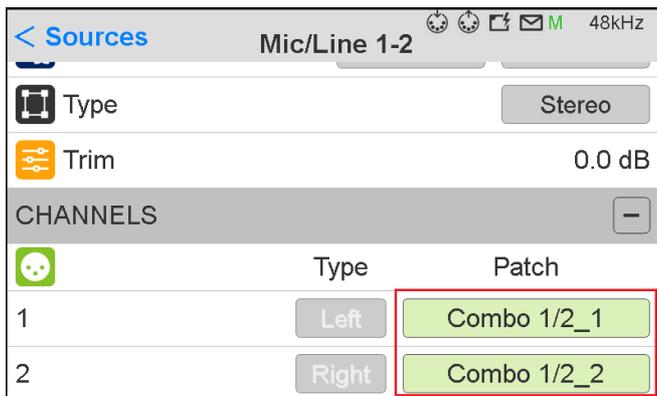
## ANUBISの基本的な設定

1. ANUBISのHomeボタン (  ) を1秒間押しして、タッチスクリーンのSeggins (  ) にタッチします。



設定を変更していない場合、通常はこの項目2はパスして構いません。もし思い通りに動作しない場合は、念の為この項目を確認してください。

2. **Sources**にタッチし、SourceとしてMic/Line 1-2 にCombo 1/2\_1とCombo 1/2\_2が割り当てられていることを確認してください。

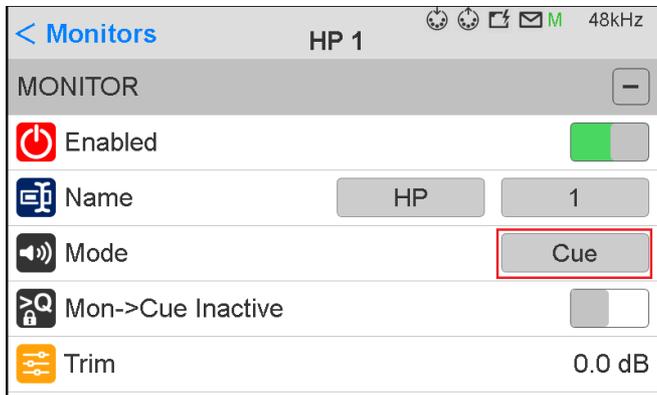


これ以降の項目は、ヘッドフォン出力に遅延の少ないCue信号を送る設定です。CueにはTalkback回線が割り込む設定となりますので、使用には気をつけて設定して下さい。

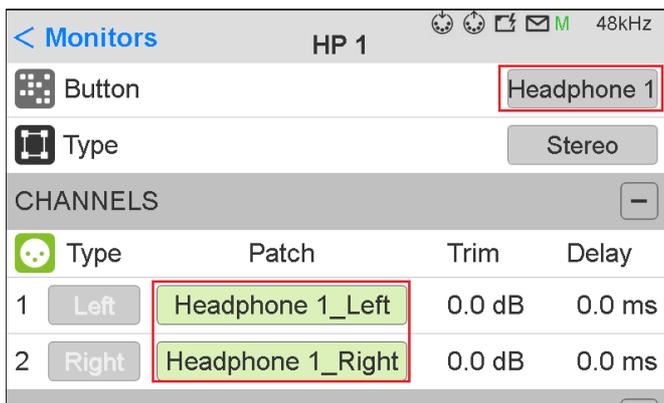
3. 次に、**Monitors**にタッチして、Phone1にタッチします (デフォルトの設定では、ここはHeadphone1の出力をコントロールする部分です) 。



4. **Mode**をタッチし、ドロップアウトリストから[[**Cue**]]に変更します。
5. **Name**が同時に変更されますので、適当な名前（ここでは**HP 1**）に変更してください。



6. 下にスクロールさせて、**ボタン**に[[**Headphone 1**]]が割り当てられていることを確認してください。これで**Headphone 1ボタン**を押すと、ヘッドフォンのボリュームなどのコントロールができるようになります。
7. さらに下にスクロールさせて、出力が[[**Headphone1 Left**]][[**Headphone1 Right**]]に設定（パッチ）されていることを確認してください。



これで設定は完了です。

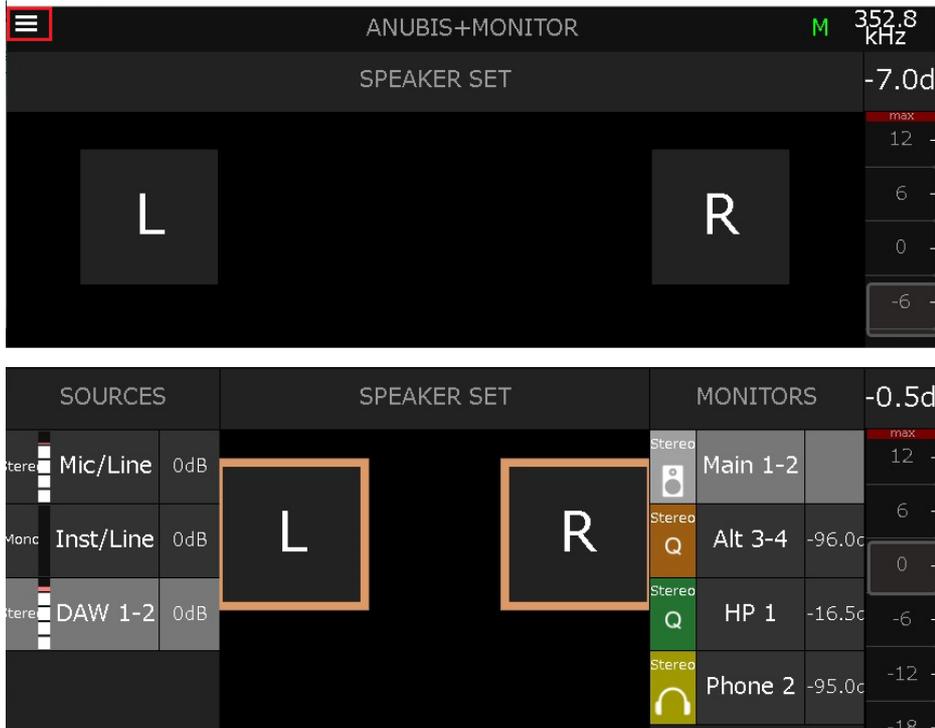
※ これも通常、電源を入り切りしただけでは変更されません。設定をANUBIS上のPresetに保存し、再現することも可能です。



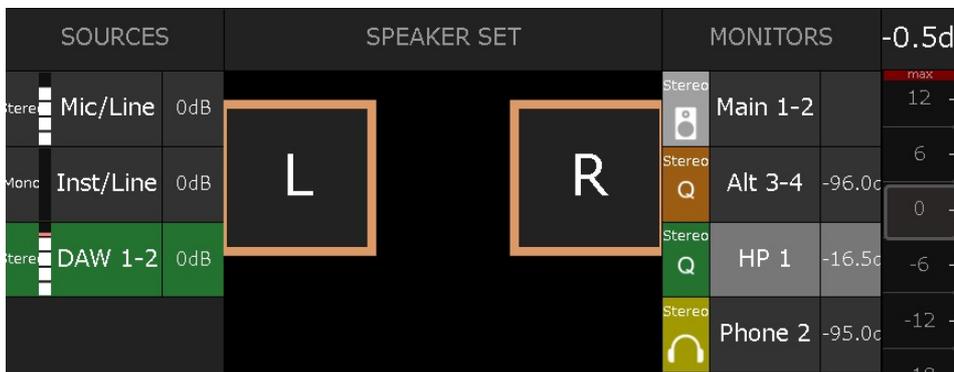
## 使い方

1. ANEMANの World View で、ANEMANをダブルクリックして下さい。
2. ブラウザが起動し、ANEMANの操作画面が表示されます。

”メニューアイコン（左上の赤枠）”をマウスでクリックすると、SOURCES と MONITORS のセレクトアが表示されます。



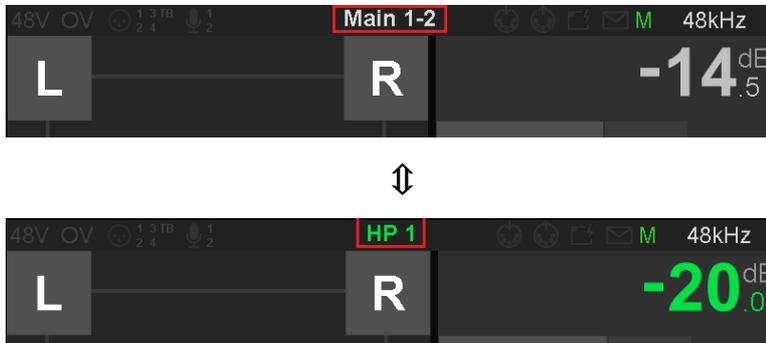
3. 右のMONITORSで[[Main 1-2]]をクリックで選択し、左のSOURCESで[[DAW 1-2]]をクリックして選択すると、XLRからDAWのプレイバックがモニターから聴こえるはずですが。
4. 次に、[[HP 1]]をクリックして選択し、SOURCESで[[DAW 1-2]]をクリックして選択すると、Headphone 1 のジャックに接続されたヘッドフォンからもDAWのプレイバックが聴こえるはずですが。



※ ここでDAWのプレイバックが聴こえない場合、1) HP1の出力が正しく設定されていないか（前項8を要チェック）、2) ヘッドフォンのボリュームが上がっていないか（次の5を参照）が原因として考えられます。前項8が設定されているのが確認できたら、次へ進んで下さい。



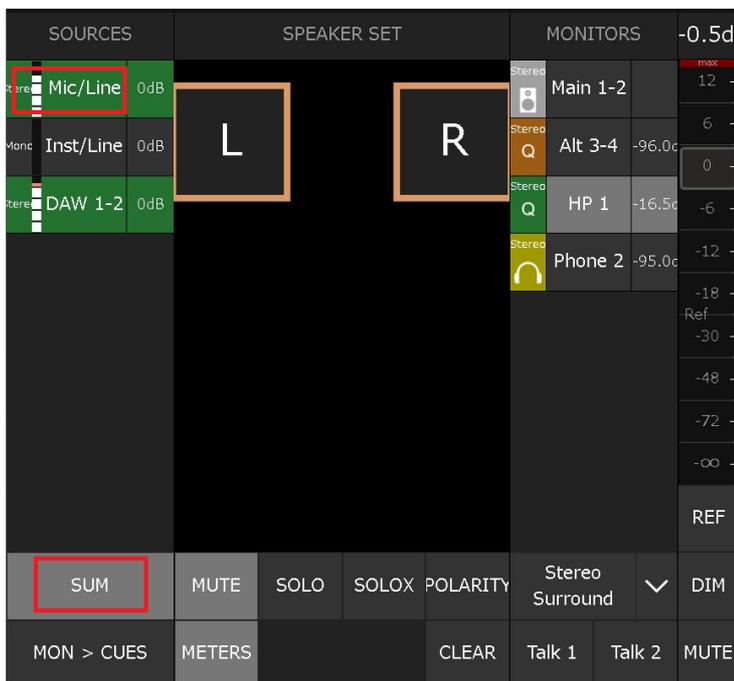
- 音量調整は、ANUBIS上のヘッドホン1のスイッチを押し、ロータリーエンコーダーを回して下さい。ヘッドホン1のスイッチを押した時、ANUBISのLCDは下図の様に变化します。



つまり、音量を示す数字や、MONITORSへの送り先表示の文字と色が、Main 1-2（白）、HP 1（緑）それぞれのボタンの色とマッチします。これでロータリーボリュームが何をコントロールしているかが直感的に判断できます。

### マイク入力の音をDAWの音にミックスしてヘッドホンで聴く方法

- MONITORSをHP 1に選択し、画面左下にある[[SUM]]をクリックで選択し、さらにSOURCESで[[Mic/Line]]をクリックすると、DAWのプレイバックとともに、Mic/Lineに入力されたソースが加えられて聴こえるはずですが。

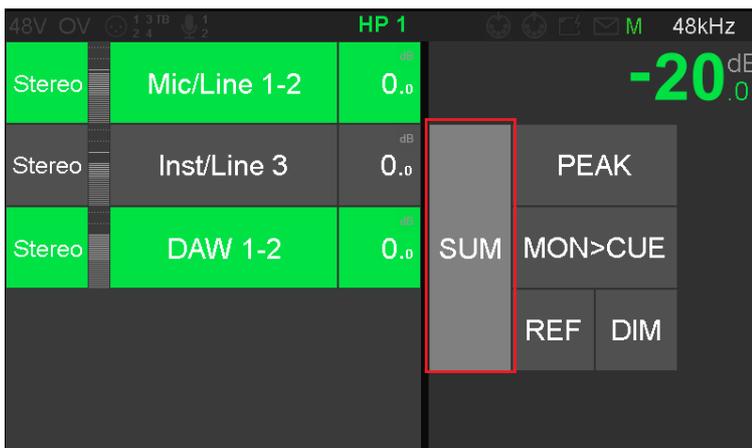


- これらのミックスは、デフォルトでは0dBとなっていますが、そのミックスの状態もSOURCES側のソース名の右に数字で表示されています。



これを変更するには、ANUBISで行います。

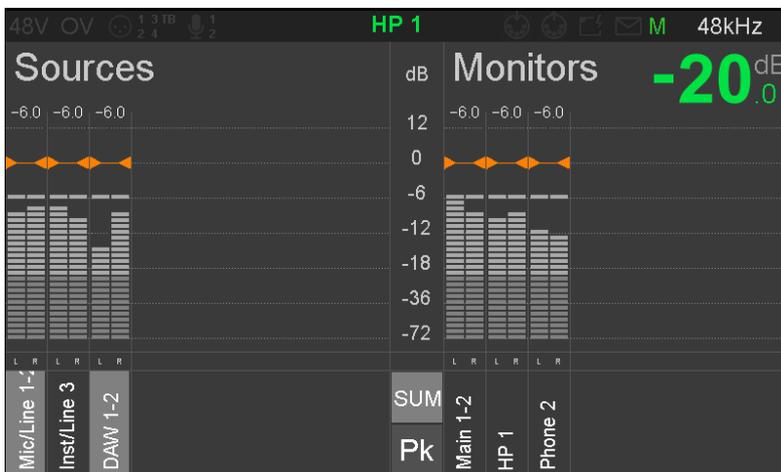
- ヘッドフォン1のボタンを押した状態で、ANUBISのホームボタン (▲) を短く押します。するとヘッドフォン1 (正確にはMONITORSのHP 1へのSOURCE) のSOURCEが表示されます (ソースページと呼ばれています)。



この画面は、前項のWebブラウザで設定した "選択したMONITORSに対するSOURCEの選択" になっています。そのため、ANUBISの操作に慣れたらANUBISだけでも操作できます。

つまり、Speaker 1 やその他のモニター選択ボタンを選択して、次にホームボタンを押すと、そのMONITORに対するSOURCEの選択がこのページで設定できます。

- もう一度、ホームボタン (▲) を短く押すと、さらに表示が変わり、下の様になります (メーターページと呼ばれています)。





※もう一度、ホームボタン (  ) を短く押すと、元のモニターページに戻ります。

10. メーターページで、左のSources側の音量を変えたいソースのメーターにタッチしてください (この例ではMic/Line 1-2 または DAW 1-2 のどちらかになります)。

音量を変えたいソースのメーターに**タッチしたまま**、ロータリーボリュームを上げ下げすると、そのソースのミックスされる音量が上下します。

